

みはら情景 わたしの思い出 ②4 能地春祭り



地区ごとに分かれて、だんじりが競い合うのは、昔からの習わしです



力持ちが集まってだんじりを担ぎます。ときには激しいぶつかり合いも

地域の情熱を祭りにこめて



藤井孝一さん 阪田光昭さん
(いずれも幸崎町能地)

「地元の人だけではなく、ほかの地域の人にも祭りを楽しんでもらいたいです」

能地春祭りは、幸崎町の人々が100年以上前から親しんでいる、伝統の祭りです。名物のだんじりと獅子太鼓の奉納は今でも受け継がれ、人々を楽しませています。4地区からだんじりを出し、それぞれ二人の子どもが大鼓を打つのが古くからの習わしです。
「現在は全体の人数が減ってしまいました。が、祭りになると若い人たちが帰ってきて、盛り上げています。伝統を守れるのは、今いる人と町を離れた人の連帯感があるからこそだと思います」と語るのは、能地春祭り保存会会長の阪田光昭さん。当初は男どうしのぶつかり合いで、けんかやけがが絶えませんでした。阪田さんは医師としての手当てで忙しい傍ら、祭りの世話をする当屋を引き受けることもしばしばありました。
元漁業組合会長の藤井孝一さんは、16歳で青年団に入り、実際に何度もだんじり担ぎを経験しました。「入ってすぐにだんじりに触れるわけではなく、先輩のお使いをこなすことからはじめました」と語る藤井さん。派手なはつぴを着て、勇ましくだんじりを担ぐまでの苦勞を聞かせてくれました。
二人は、伝統行事を継承するためには、人を集めることが必要だと言います。「だんじりを展示して、他の地域の人に見てもらいたい」、「若い人のボランティアを募りたい」、「アイディアを出し合いながら、祭りに対する情熱を持ち続けています」。

三原市歌

未来へ かがやく三原
一 和久原沼田の 流れ清く
しまなみ遙か 瀬戸の海
文化と歴史 はぐくみ伝え
未来へ
かがやく三原
二 龍王宇根の 緑ふかく
ひろがる大地 高い空
希望と願い 翼に乗せて
世界へ
はばたく三原

スポーツ安全保険

スポーツ・文化・ボランティア活動などを安心して行えるよう、スポーツ安全保険を利用してください。
加入資格 5人以上のアマチュア
ユアの団体やグループ
対象となる事故 団体活動中の事故・その往復中の事故
掛金(1人年額) 子ども500円 文化・ボランティア活動を行う大人500円
スポーツを行う大人1,500円
保険期間 4月〜来年3月
申込期間 随時
申し込み・問い合わせ先 財団法人スポーツ安全協会
広島支部(県教育委員会内)

082-223-786
5)

三原市の人口

(1月31日現在)

世帯数	43,418世帯(+587)
人口	105,289人(-178)
男	50,514人(-1)
女	54,775人(-177)

()内は前年同月との比較

あ・と・が・き

暖冬の影響で、本格的な冬を感じる間もなく、3月を迎えました。3月といえば、卒業の季節。新しい門出の前に、キラキラした希望と胸がいっぱいの人も多いことと思います。広報担当になって三年がたち、振り返れば多くの人の出会いがありました。今月号で最終回となる「みはら情景 わたしの思い出」です。今まで取材を受けてくださった皆さん一人ひとりを、懐かしく思い出していただき、取材のお願いの電話をするときは、いつも緊張します(汗)。「突然のお願いで失礼になることはないか」と不安にお会いして、相手の笑顔を見ると、サツと緊張がほぐれます。豊富な人生経験から語っていたいただいた想い出話と、ほっと和む笑顔をありがとうございます。